

5 avril 2008



#85 Les otaku et Le Chat

フランス語トピックはベルギーの風刺漫画家Philippe Geluckの紹介。代表作『Le Chat』の内容について聴き取ってみましょう。レッスンでは、部分否定について考えます。

☆パーソナリティ

ボブ & ちなみ

☆今週のゲスト

東浩紀さん
哲学者

Générique et intro

Le 5 avril 2008, quatre-vingt-cinquième numéro de chocolat, magazine bilingue français – japonais.

Rencontre avec Hiroki Azuma, théoricien de la culture "otaku".

Le Chat de Philippe Geluck fête ses 25 ans.

「東浩紀さん....」

哲学者で評論家の東浩紀さんにフランス語に翻訳出版された著書についてお話を伺いました。

Hiroki Azuma est deux fois satisfait par la traduction de son livre en français. D'abord, le livre devrait permettre une meilleure compréhension de l'univers des "otaku" et des "mangas" en France. Ensuite, pour l'auteur qui a étudié la philosophie française, c'est un réel plaisir de voir son travail accessible en français.

覚えよう petit à petit♪

dessin

素描(デッサン)、イラスト、漫画など

bande-dessinée

いわゆる「マンガ」(BDと略記)

Le ChatPhilippe Gelukのマンガのタイトル
「猫」**célèbre**

有名な

pratiquement

事実上、ほとんど

jeux de mots

ことば遊び

sens

意味

son

音声

Le Chat...**Bob** : Comment dit-on, en japonais, des mangas, des dessins, il y a trois cases, trois dessins, et ça fait une petite histoire.**Chie** : ...**Bob** : Ah, san koma manga, c'est facile. En Belgique ou en France, dans les journaux bien souvent, on utilise ces san koma manga, ces petites bandes-dessinées. Celui-ci, dont je voudrais parler, Le Chat, c'est un personnage de bande dessinée, de san koma manga très, très célèbre maintenant en France...**Chie** : ...**Bob** : Oui. Oui, oui, il est devenu très, très à la mode. Le Chat est pratiquement impossible à traduire en japonais parce qu'il y a beaucoup de jeux de mots.**Chie** : ...**Bob** : Et donc, en français c'est drôle. Si on traduit comme ça en japonais, ça n'a plus aucun sens.**Chie** : ...**Bob** : Hm, il y a une différence de cultures, et puis le mot, le son du mot, pas uniquement le sens, le son du mot est utilisé aussi, et donc, si on traduit seulement le sens...**Chie** : ...**Bob** : Tout n'est pas difficile à traduire. Il y a des choses... Par exemple, regarde, qu'est-ce que tu vois ici, toi ?**Chie** : ...**Bob** : Alors, il est en train de taper à la machine, et il tape le mot "café". Et puis, il pense à quelque chose, et il dit : "Café, ça prend un ou deux sucres ?"**Chie** : ...**Bob** : ... 「Vous prenez un ou deux sucres ?」 ...

「Café, ça prend un ou deux sucres ?」 ...

petite leçon: ぶんぼう一口メモ

1) フランス語の基本

1-1) 部分否定

tout, toujours, absolument, complètement...等、全体、完全、絶対などを意味する語(代名詞、形容詞、副詞)が否定文で使われると、通常は、(英語と同じく)部分否定になります。

- **Tout n'est pas difficile à traduire.**(全部が翻訳しにくいというわけではありません。)

肯定や全否定の文と比較してみましょう。

例) a) [肯定] - **Il a tout mangé.** (彼は全部食べてしまった。)

b) [部分否定] - **Il n'a pas tout mangé.** (彼は全部食べたわけではない。)

つまり、一部は残したということです。

一方、全否定にすると、この場合、《**rien**》(= 英語: **nothing**)を使います。

c) [全否定] - **Il n'a rien mangé.** (彼は何も食べませんでした。)

1-2) **être en train de** +不定詞(～している最中である)

フランス語には、英語のように独立した現在進行形はないので、今進行中の行為は単に現在形で表します。しかし、あえてそれを強調したいときはこの表現を用います。

- **Il est en train de taper à la machine...**(彼はタイプライターを打っている最中です。)

例) - **Je suis en train de lire.** (私はいま読書の最中です。)

cf. [現在形] - **Je lis.** (私は本を読んでいます。[または]私は読書をします。)

このように、直接法現在(現在)は文脈に応じさまざまな意味になります。

2) フランス語のコツ

関係代名詞《**dont**》の使い方

《**dont**》は、**de**を含んだ関係代名詞です。性・数による変化はありません。**de qui, de quoi, duquel**などの代わりに広く使われます。

- **Celui-ci, dont je voudrais parler...**(これについて話したいのですが。)

この文は、**celui-ci**が強調され前に置かれていますが、普通の文に言い換えると、**je voudrais parler de celui-ci...**(私はこれについて話したいのですが)となります。《**dont**》は、先行詞**celui-ci**を従属文中の動詞**parler**とつないで一文にまとめています。

ここで**de**を含む関係代名詞《**dont**》が使われたわけは、動詞**parler**に《**parler de...**》(…について話す)という用法があるからです。

例) **Le chien dont j'ai peur...**(私が恐れているその犬...)

この例では、《**avoir peur de...**》という熟語が使われているので、関係代名詞は《**que**》ではなく《**dont**》になります。《**J'ai peur du chien.**》という文の《**le chien**》を先行詞にすると、後続の従属文は、**de**を含む関係代名詞《**dont**》を介してつながります。

次の例は(**de**を用いた熟語表現の類はなく)、《**dont**》が先行詞と従属文の主語とを結んでいます。

例) **J'ai un ami dont la mémoire est remarquable.**(私にはすばらしい記憶力の友人がいる。)

この文は、① **J'ai un ami.**(私には一人の友人がいる)、② **La mémoire de cet ami est remarquable.**(この友人の記憶力はすばらしい)、という二文に分けられます。《**ami**》を先行詞にしてこれらをつなぐ《**dont**》は、従属文の主語**la mémoire**にかかっています。

ゲリュックのマンガ:「ネコ」シリーズ

フィリップ・ゲリュック **Philippe Geluck** (1954年生れ) は、今ベルギーで一番人気のある風刺漫画家です。彼を有名にしたのは、ベルギーのフランス語圏地域で広く読まれている新聞《**Le Soir**》紙に掲載されたマンガ《**Le Chat**》でした。主人公は、太った丸顔の中年紳士の姿のネコで、皮肉たっぷりのユーモアで人々を「死ぬほど笑わせ **mourir de rire**」ます。すっかり有名になったこの「ネコ」シリーズは、ベルギー国内だけでなく、フランスや他のフランス語圏の地域でも知られるようになり、カラー版の単行本も多数出版されています。ゲリュックが街を歩くと、「ニャーニャー **miaou**」と言って声をかける人もいます。

ほぼ唯一の登場人物である主人公のネコ氏は、「ワンマン **one-man**」、酒飲み、タバコ好き、傲慢、妻に嫌味を言う嫌な奴といった「悪癖ばかり」のキャラクターですが、「それでも彼は決して悪徳に染まってはいませんよ」、とゲリュックは言います。彼によれば、このネコ氏を通して、羽目はずすバカ話や皮肉をこめたユーモアばかりでなく、愛情や哲学や詩も表現できるのです。マンガを描くことが大好きなゲリュックですが、それはまた「とてつもなく孤独な活動 **une activité terriblement solitaire** です」と洩らしています。

ことば遊びや社会状況に関連した風刺が多いこのマンガは、背景をなす「文化差 **différence de cultures**」も加わって、たしかに翻訳がむずかしいのですが、ゲリュックのオフィシャル・サイトから、わかりやすいものをいくつか紹介しましょう(画像は、<http://www.geluck.com/> をご覧ください)。



1) ネコ氏が新聞を広げています。その新聞はあちこちに切り抜きがあり穴だらけです。ネコ氏はこう言います。「妻が広告の割引券をみんな切り抜いてしまった。もうできるのは、妻からハサミを取り上げるか、でなけりゃ、彼女より先に新聞を読むしかないよ。」

2) 机を前にネコ氏は読者に向かってこう言います。「さあ何でも話してくださいね。...でも、快い話だけです!」

3) 後方の電話ボックスのなかで(シルエットだけの)男が電話しています。ボックスの手前では、ネコ氏が携帯電話で話しています。「あいつの話はもう終るよ。そりゃわかるさ。だって、彼と話しているのはぼくなんだからね!」

以上は1こまマンガですが、話題の三こまマンガもあります。

- 4) ① 神は雨 **pluie** を創造した。そのとおり。でも人間は雨傘 **parapluie** をつくったのさ。
- ② 神は風 **vent** を創造した。そのとおり。でも人間は風除け **paravent** をつくったのさ。
- ③ 神はラディツジュ **radis** を創造した。そのとおり。でも人間は天国 **paradis** をつくったのさ。

5) ① こちら側(第二コマ)に向かって歩けば、② 当然私が行き着くのは、③ 結局第三コマの中 **dans la troisième case** なんだ!

この最後の部分を少し解説すると、《**troisième case**》という言葉は、《**case**》に発音が近い《**cage**》(檻、牢獄)をイメージさせると同時に、《**troisième âge**》(第三の年齢)＝「老後」も連想させます。